

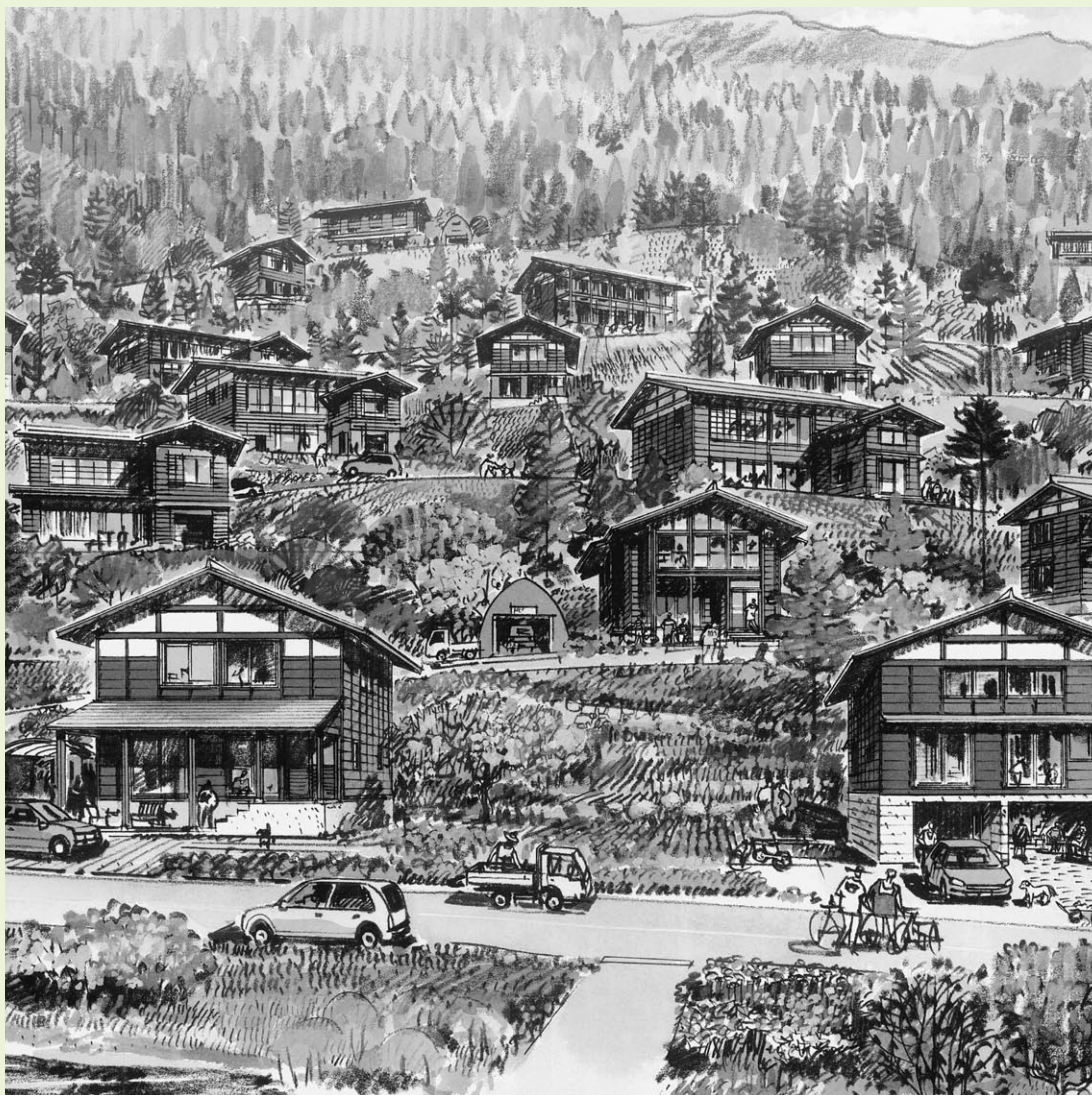
Annual Report of Researches on Development of Welfare Society

福祉社会 開発研究

MARCH, 2011

No. **4**

2011年3月



「山古志の集落の復興イメージ」



東洋大学福祉社会開発研究センター

CENTER for DEVELOPMENT of WELFARE SOCIETY, TOYO UNIVERSITY

平成22年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト1

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

2011年3月

平成22年度 福祉社会開発研究センター 研究概要

私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター (人文社会系)

「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト1

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

C O N T E N T S

1. Dynamics of income disparity among households and children in Japan -Poverty and Social Exclusion among Children in Japan-	プロジェクト1 客員研究員 天野マキ	5
2. 大都市ひとり暮らし高齢者の生活特性 —住居形態に着目して—	プロジェクト1 研究支援者 小椋佑紀	15
3. 東京都における民生委員活動の統計的分析Ⅲ —単位民生児童委員協議会と自治体との関係を中心として—	プロジェクト1 研究員 小林良二	27
4. 単位民児協の活動実態 —3つの活動領域を切り口にして—	プロジェクト1 RA 大村美保	37
5. 福祉社会形成のための学生ボランティアリクルートの方策	プロジェクト1 研究員 後藤広史	49
6. 「安全・安心」な福祉社会形成のあり方 (第3報) —犯罪と社会福祉・社会保障との関係に関する統計的考察 (その1) —	プロジェクト1 研究員 片平冽彦 プロジェクト1 研究協力者 細井洋子 プロジェクト1 研究協力者 榎 宏朗 プロジェクト1 研究協力者 小泉隆文	57
7. 医療・保健・福祉分野団体考 — その設立・活動・解散過程	プロジェクト1 客員研究員 大坪省三	65
8. 地方都市における地域社会統合と周辺 —帯広市における外国籍者の存在形態を例として—	プロジェクト1 研究員 松本誠一	77
9. ソーシャルワークにおけるパートナーシップ形成に向けたツール使用の可能性 (2) —母子家庭の母・ケースワーカーからのインタビュー調査による事例研究から—	プロジェクト1 客員研究員 久保田純	89

プロジェクト1 研究組織

プロジェクト番号	所属・職	研究者名	研究プロジェクトにおける研究課題
プロジェクト代表	福祉社会デザイン研究科委員長（ライフデザイン学部）・教授	古川 孝順	福祉社会形成論
プロジェクト1-1	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	小林 良二	社会福祉組織論 プロジェクト1-1の統括
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	秋元 美世	自治体行政計画論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	金子 光一	社会福祉論
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	須田木 綿子	非常利組織論
	客員研究員 東洋大学大学院非常勤講師	片平 洸彦	医療福祉論
	社会学部・准教授	加山 弾	地域福祉論
	社会学部・講師	川原 恵子	貧困論
	社会学部・助教	後藤 広史	貧困・ホームレス論
	客員研究員 東洋大学・名誉教授	天野 マキ	高齢者福祉論
	客員研究員 独立行政法人重度知的障害者総合施設のぞみの園職員	相馬 大祐	障害者福祉論
	客員研究員 東洋大学・名誉教授	大坪 省三	都市社会学、交通社会学 プロジェクト1-2の統括
	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	紀 葉子	地域社会システム論
	プロジェクト1-2	福祉社会デザイン・社会学研究科（社会学部）・教授	西澤 晃彦
福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授		松本 誠一	社会人類学
福祉社会デザイン研究科（社会学部）・准教授		西野 理子	家族社会学、ライフコース論
福祉社会デザイン研究科（社会学部）・准教授		村尾 祐美子	労働社会学、ジェンダー論、 社会階層論
社会学部・講師		※西野 淑美	都市社会学
プロジェクト1-3	福祉社会デザイン研究科（社会学部）・教授	森田 明美	児童福祉政策論 プロジェクト1-3の統括
	客員研究員 こども教育宝仙大学こども教育学部・准教授	宮武 正明	母子世帯の自立支援研究

平成22年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト2

中山間地域の振興に関する調査研究

—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—

2011年3月

平成22年度 福祉社会開発研究センター 研究概要
私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター (人文社会系)
「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト2

中山間地域の振興に関する調査研究

—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—

CONTENTS

1. 山古志における農的営みを支える農産物直売所の現状と課題			
	プロジェクト2 研究員	清野 隆 明峯哲夫	…… 109
	プロジェクト2 RA	青柳 聡	
	プロジェクト2 研究協力者	川澄厚志 杉原由紀子	
2. 長岡市山古志での都市農村交流に関する報告と考察 — 2008年4月から2010年10月までの主な事例から —	プロジェクト2 客員研究員	仁瓶俊介	…… 129
3. 山古志における通い耕作という暮らし方とその可能性 — 通い耕作と通いやコンづくりの実態調査の報告 —	プロジェクト2 客員研究員	仁瓶俊介	…… 153
	プロジェクト2 客員研究員	清野 隆	
4. 集落再生に向けた人的支援の取り組み — 山古志サテライトの地域復興支援員の活動日誌の分析より —	プロジェクト2 客員研究員	古山周太郎	…… 173
5. [研究ノート] 持続可能な地域づくりに向けた人的支援のあり方 — 山古志サテライトの地域復興支援員に対する聞き取り調査より —	プロジェクト2 研究協力者	川澄厚志	…… 181
	プロジェクト2 旧リーダー	内田雄造	
6. 山古志における高齢者の介護生活の再建と地域関係	プロジェクト2 研究員	吉浦 輪	…… 189
7. 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての事例紹介	プロジェクト2 研究員	松尾順一・坂口正治・齊藤恭平 神野宏司・岩本紗由美	…… 197
8. 十二山ノ神の信仰と祖霊観(拾遺)	プロジェクト2 研究員	菊地章太	…… 209

プロジェクト2 平成22年度 福祉社会開発研究センター 研究員・客員研究員一覧

	所属・職	氏名	備考
センター長	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	古川 孝 順	
プロジェクト②	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	水 村 容 子	プロジェクト②リーダー
〈生活自立支援研究〉 7名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	渡 辺 裕 美	総括
	ライフデザイン学部・講師	高 野 龍 昭	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	神 吉 優 美	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	白 石 弘 巳	
	ライフデザイン学部・准教授	柴 田 範 子	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	的 場 智 子	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	吉 浦 輪	
〈次世代育成支援研究〉 6名 ※うち客員研究員2名	福祉社会デザイン研究科(社会学部)・教授	森 田 明 美	総括
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	角 藤 智 津 子	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	中 原 美 恵	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	小 林 英 義	
	清和大学短期大学部・講師	若 林 ち ひ ろ	客員研究員
	帝京平成大学・講師	田 谷 幸 子	客員研究員
〈健康自立支援研究〉 5名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	松 尾 順 一	総括
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	坂 口 正 治	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	齊 藤 恭 平	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	神 野 宏 司	
	ライフデザイン学部・准教授	岩 本 紗 由 美	
〈住生活・住宅研究〉 5名 ※うち客員研究員3名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・准教授	水 村 容 子	総括
	工学部・名誉教授	上 杉 啓	客員研究員
	工学研究科(理工学部)・教授	秋 山 哲 一	
	前橋工科大学・准教授	古 賀 紀 江	客員研究員
	一級建築士	仁 瓶 俊 介	客員研究員
〈地域産業研究〉 6名 ※うち客員研究員4名	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	水 村 容 子	総括
	社会学研究科(社会学部)・教授	青 木 辰 司	
	NPO法人 ふるさと帰郷支援センター事務局・事務局長補佐	嵩 和 雄	客員研究員
	農業生物学研究室・主宰	明 峯 哲 夫	客員研究員
	奈良県立大学・講師	古 山 周 太 郎	客員研究員
	立教大学・プログラムコーディネーター	清 野 隆	客員研究員
〈景観計画研究〉 3名 ※うち客員研究員1名	工学研究科(総合情報学部)・准教授	小 瀬 博 之	総括
	工学研究科(総合情報学部)・教授	尾 崎 晴 男	
	千葉大学地域観光創造センター・特任研究員	齋 藤 伊 久 太 郎	客員研究員
〈地域文化研究〉 3名	ライフデザイン学部・教授	菊 地 章 太	総括
	ライフデザイン学部・准教授	高 橋 直 美	
	福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授	井 上 治 代	
<RA> 1名	プロジェクト2 RA	青 柳 聡	

2011.1.26現在

本プロジェクト開設時よりプロジェクトリーダーを務めていた「福祉社会デザイン研究科(ライフデザイン学部)・教授 内田雄造」が本年度中に逝去したことに伴い、期中に変更が発生しております。

平成22年度福祉社会開発研究センター研究概要

資 料

研究概要／活動報告

2011年3月

福祉社会開発研究センター活動報告

I 合同活動の報告

1. 福祉社会デザイン研究科・福祉社会開発研究センター合同研究会

開催日時：2010年9月11日（土）13時30分から16時50分

開催場所：東洋大学白山キャンパス3203教室

参加者：70名

開催内容：

【報告者・テーマ・コメンテーター】

第1報告

報告者：大村美保（社会福祉学専攻博士後期課程・福祉社会開発研究センター RA）

テーマ：「知的障害者グループホーム利用者の家計収支分析」

コメンテーター：秋元美世（社会福祉学専攻 教授・福祉社会開発研究センター研究員）

第2報告

報告者：植木信一（ヒューマンデザイン専攻博士後期課程）

テーマ：「母親クラブへの国庫補助制度導入の影響」

コメンテーター：森田明美（ヒューマンデザイン専攻 教授・福祉社会開発研究センター研究員）

第3報告

報告者：金東善（ヒューマンデザイン専攻博士後期課程）

テーマ：「家庭内の高齢者虐待の実態と予防に関する日本と韓国の比較」

コメンテーター：小澤 温（ヒューマンデザイン専攻 教授）

第4報告

報告者：青柳聡（ヒューマンデザイン専攻博士後期課程・福祉社会開発研究センター RA）

テーマ：「被災地における仮設市街地に関する研究」

コメンテーター：内田雄造（人間環境デザイン専攻 教授・福祉社会開発研究センター研究員）

第5報告

報告者：山田義文（ライフデザイン学部 助手）

テーマ：「中山間地域における高齢者居住施設に関する研究」

コメンテーター：神吉優美（人間環境デザイン専攻 准教授・福祉社会開発研究センター研究員）

第6報告

報告者及びテーマ：前期課程1年生による合同発表

コメンテーター：紀葉子（福祉社会システム専攻 教授・福祉社会開発研究センター研究員）

【司会】

小林良二（社会福祉学専攻 教授・福祉社会開発研究センタープロジェクト1リーダー）

【総括コメント】

内田雄造（研究科委員長）／古川孝順（福祉社会開発研究センター長）

II プロジェクト1 活動報告

1. 白山グループ研究会

(1) 第1回白山グループ研究会

開催日時：2010年5月13日（木）12時10分から13時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5401教室

参加者：7名

開催内容：

プロジェクト1-3の村尾研究員が「那覇市における「まちづくり」としての引きこもり支援」というテーマで報告し、その後、議論した。

(2) 第2回白山グループ研究会

開催日時：2010年6月24日（木）12時10分から13時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5302教室

参加者：8名

開催内容：

プロジェクト1-3の森田研究員が「ひとり親家庭の地域における子ども支援をめぐって」というテーマで報告し、その後、議論した。

(3) 第3回白山グループ研究会

開催日時：2010年7月8日（木）12時10分から13時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 5401教室

参加者：8名

開催内容：

プロジェクト1-1の小林研究員が「地域包括支援センターとネットワークづくりの課題—墨田区を事例として—」というテーマで報告し、その後、議論した。

2. ブックプロジェクト

2011年度にこれまでの研究成果をまとめた書籍の刊行を目指し、ブックプロジェクトを立ち上げた。

(1) ブックプロジェクト編集委員会

第1回 7月29日（木）12:10-12:50 福祉社会開発研究センター（20813室）

第2回 9月2日（木）10:30-12:00 福祉社会開発研究センター（20813室）

第3回	9月27日(木)	15:00-16:10	福祉社会開発研究センター(20813室)
第4回	11月12日(月)	13:30-14:30	福祉社会開発研究センター(20813室)
第5回	12月10日(月)	15:00-16:00	福祉社会開発研究センター(20813室)

(2) ブックプロジェクト研究会の開催

第1回	11月14日(日)	10:00-18:00	東洋大学白山キャンパス5401教室
第2回	2月13日(日)	10:00-14:00	浦水会館301号室

Ⅲ 各研究グループの活動報告

プロジェクト1-1

1 「みまもり相談室会議」への参加

墨田区役所高齢者福祉課、高齢者みまもり相談室等の参加による、「みまもり相談室会議」にて、小林良二研究員による同相談室の運営に関する助言、東洋大学学部生による活動報告等が行われた。開催日時・場所は次のとおり。

4月21日(水)	14:00-16:00	アウトピアみどり苑(みどり高齢者みまもり相談室)
4月30日(金)	14:00-16:00	墨田区シルバー人材センター会議室(文花高齢者みまもり相談室)
7月29日(木)	14:00-16:00	墨田区シルバー人材センター会議室(文花高齢者みまもり相談室)
9月30日(木)	14:00-16:00	アウトピアみどり苑(みどり高齢者みまもり相談室)
10月28日(木)	14:00-16:00	墨田区シルバー人材センター会議室(文花高齢者みまもり相談室)
11月25日(木)	14:00-16:00	アウトピアみどり苑(みどり高齢者みまもり相談室)
12月27日(月)	15:00-17:00	墨田区シルバー人材センター会議室(文花高齢者みまもり相談室)

2 研修等への参加

(1) 「みどり高齢者みまもり相談室 開所式」への参加

日時：5月14日(金) 14:00-15:30

場所：みどり高齢者みまもり相談室

参加者：50名超

内容：後藤広史研究員による講演「地域における見守りについて」のほか、当日出席者(町会長・老人クラブ会長・民生委員等)がグループにわかれ、地域での見守りについて話し合い・報告が行われた。

(2) 東京都「シルバー交番設置事業説明会」への参加

日時：10月15日(金) 15:00-17:00

場所：東京都庁第2本庁舎1階 二庁ホール

参加者：都内市区町村の高齢者福祉分野の担当者等

内容：東京都の担当課長による当該事業の説明、墨田区・三鷹市による取り組み報告、シンポジウム「在宅高齢者の見守りの推進に向けて」が行われた。シンポジウムでは、小林良二研究員がコーディネータを務めた。

(3) 「『福祉と医療連携を考える研究会』ケアマネージャー在宅医療研修」の共催

日 時：11月11日（木） 18:30-

場 所：東洋大学白山キャンパス5201教室

参加者：50名

3 研究会の開催

10月31日から11月3日に行われた韓国における総合社会福祉館の調査に先立ち、研究会を開催した。開催日時・場所は以下のとおり。

7月 8日（木）	10:30-12:00	福祉社会開発研究センター（20813室）
7月15日（木）	10:30-12:00	福祉社会開発研究センター（20813室）
8月 5日（木）	10:30-12:00	福祉社会開発研究センター（20813室）
9月16日（木）	10:30-12:00	福祉社会開発研究センター（20813室）
10月14日（木）	10:30-12:00	福祉社会開発研究センター（20813室）

プロジェクト1-3

1. 研究会

第1回

開催日時：4月25日（日） 10:00-12:00

開催場所：東洋大学白山キャンパス

参加者：6名

開催内容：「八千代市母子世帯の子育てに関する基礎調査」（以下、基礎調査）の方向性、母子自立支援プログラムの実施状況等について

第2回

開催日時：5月16日（日） 10:00-12:00

開催場所：東洋大学白山キャンパス

参加者：4名

開催内容：基礎調査の項目・日本社会福祉学会（第58回全国大会）での研究発表内容の検討

第3回

開催日時：6月13日（日） 10:00-12:00

開催場所：東洋大学白山キャンパス

参加者：4名

開催内容：基礎調査の項目・日本社会福祉学会での研究発表内容・八千代市職員研修内容の検討

第4回

開催日時：10月10日（日） 18:00-20:00

開催場所：名古屋市内

参加者：7名

開催内容：日本社会福祉学会での研究発表に関するディスカッション、今後の予定について

第5回

開催日時：11月14日（日） 9:00-10:00

開催場所：東洋大学白山キャンパス

参加者：4名

開催内容：東洋大学福祉社会開発研究センター・ブックプロジェクト研究会での報告内容の確認

第6回

開催日時：11月21日（日） 14:00-16:00

開催場所：東洋大学白山キャンパス

参加者：4名

開催内容：基礎調査の分析経過、八千代市との打ち合わせについて

第7回：3月下旬を予定

2. 「八千代市母子世帯の子育てに関する基礎調査」の実施

調査方法：郵送による調査票配布、回収は八千代市役所子育て支援課に回収箱を設置

実施期間：2010年7月20日 - 9月30日

*8月15日・20日・23 - 26日については、八千代市役所にて、記入上の不明点等の直接対応を実施

3. 母子自立支援プログラムの実施状況についての継続的な調査

開催時期：2011年1月 - 3月

開催場所：八千代市役所

参加者：プロジェクト1-3関係者、生活支援課ケースワーカー

開催内容：母子自立支援プログラムケース対応に関する検証

4. 八千代市役所生活支援課職員研修

開催日時：6月29日（火）13:00 - 16:00

開催場所：八千代市役所

参加者：17名

開催内容：新人の生活保護担当ワーカーを主対象として、母子自立支援プログラムの開発経過・利用方法の説明、演習が行われた。

5. 八千代市への活動状況の報告・意見交換

開催日時：12月27日（月） 9:30 - 12:00

開催場所：八千代市役所

参加者：プロジェクト1-3関係者（5名）、八千代市生活支援課、母子自立支援員等

開催内容：「八千代市母子世帯の子育てに関する基礎調査」の結果、母子自立支援プログラムの実施状況、次年度の活動等について

6. 研究成果の公表

(1) 論文

- ・森田明美（2010）「母子家庭の地域生活移行を支える母子生活支援施設支援を考える－母子家庭地域調査を手がかりにして」東京都社会福祉協議会『母子福祉部会紀要』No.3, 4-16.
- ・久保田純（2011）「ソーシャルワークにおけるパートナーシップ形成に向けたツール使用の可能性（2）－母子家庭の母・ケースワーカーからのインタビュー調査による事例研究から－」東洋大学福祉社会開発研究センター『福祉社会開発研究』第4号.（2011年3月発行予定）

(2) 日本社会福祉学会第58回秋季大会自由研究発表

報告者：久保田純

題目：「生活保護受給母子世帯の自立支援プログラム開発（その3）－事例分析による千葉県A市版支援ツールの効果検証－」

開催日時：10月10日

開催場所：日本福祉大学美浜キャンパス

(3) フォーラム子どもの権利研究2011

報告者：清水冬樹

題目：「子どもの自己肯定感と家庭・親支援」

開催日時：2011年3月20日

開催場所：早稲田大学文学部第1会議室

Ⅳ プロジェクト2 活動報告

平成22年度〈生活自立支援研究〉グループ活動報告

I. 今年度の総括

本年度は、研究課題として次の2点にとりくんだ。1. 復興後の高齢者の生活と在宅介護の状況について事例研究を行い、時系列的に生活と介護の状況を把握し、山古志における高齢者のライフコースを具体的に把握する。さらに、震災そして山古志での自宅復帰後、どのように落ち着きを取り戻しているのか、またこの地の高齢者の生活を見据えた場合、どのような課題があるのかを事例から考察する。2. 農産物直売所が住民の交流の場としてどのように機能しているのか、農産物直売所や復興後に起業された飲食店の活動に焦点をあて、外発的支援を結びつきながら地域の中でとりくまれている内発的発展の動きを分析する。

2010年6月23日（水）「山古志地区復興後の生活課題に関する訪問面接調査」

調査員：渡辺裕美（東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科）・吉浦輪（東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科）・調査補助員（東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科大学院生1人と生活支援学科の学部生24人）が研究チームとなり、山古志で調査を実施した。

調査方法と調査対象：①在宅介護4事例（復興後山古志に復帰し在宅で介護を受ける高齢者と介護者）②復興後、地域での生活を取り戻した中高年女性達へのインタビュー。2ヶ所の農産物直売所でのききとり。③長岡市社会福祉協議会山古志支所へのインタビュー。

研究結果の概要：4事例とも震災後6年を経てようやくおちついた生活をとりもどしてきている。在宅介護は、ごく自然なこととしてとらえられ、在宅介護に対する思いが強く熱心に介護されている。どの事例でもデイサービスが有効に利用されている。高齢者世帯で介護者が高齢のため、介護負担の軽減は重要な支援であり、他者が家庭の中に入るホームヘルプサービスに比べて生活の私的な面を他人に見せることないデイサービスはこの地区の在宅介護支援として中核となっている。男性が介護する場合、比較的孤立しやすい。複雑な内面を話してくれる事例もあり、単純に表面的な介護状況から介護生活をとらえられないことも示された。介護者の集いは、介護は一人で抱え込まないで共感する場として来たいされている。高齢化が著しい山古志において介護問題は個人ではなく地域問題としてとりくむ必要が語られた。

「多菜田」は、コミュニティワークの視点から見ると、グリーンツーリズムの観光拠点、村おこしの象徴、地域における住民の自主活動の拠点、地域情報を発信し、地域外の人と地域を結びつける情報発信基地、など、さまざまな地域的役割を担った拠点施設として捉えることができる。復興支援基金を基にして、地域における内発的市民活動と展開する拠点としての機能を有する公共施設ととらえることもできる。高齢化著しい中山間地域の地域再生にとりくむ成功事例ともいえる。

Ⅱ. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	6月8日（火）16:20-17:50 東洋大学
	内容	山古志の概況、これまでの研究経過、6月23日の調査についての事前うちあわせ

2. 調査

①	日時・場所	6月23日（水）山古志 現地調査
	内容	山古志地区復興後の生活課題に関する訪問面接調査

平成22年度＜次世代育成支援研究＞グループ活動報告

I. 今年度の総括		
<p>一昨年度より実施している長岡市社会福祉協議会の災害ボランティアセンター活動記録の分析と、災害ボランティア「にゃんこ隊」の活動記録のまとめを当該団体のリーダーの協力を得て、継続して行っている。</p> <p>また、11月に石川県白山市で開催された「地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム2010」に参加し、地方自治体の子どもに対する取り組みや施策について、具体的な事例を聞くことができた。</p> <p>現在は一昨年度実施した、山古志全世帯アンケート調査での、「子ども・家庭分野」の項目を抽出し、集計・分析を進めている段階である。</p> <p>来年度は、そのアンケート調査の分析結果を継続して行い、まとめをしたいと思う。</p>		
II. 研究・調査		
1. 研究会		
①	日時・場所	11/19～20 石川県白山市
	内容	「地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム2010」参加
2. 調査		
①	日時・場所	なし
	内容	

平成22年度＜健康自立支援研究＞グループ活動報告

I. 今年度の総括

これまでの我々の研究において、山古志地区の自立生活が可能な高齢者について、ADL指標としての生活体力と健康関連QOLから精神的機能の調査を行ってきた。その結果、山古志地区高齢者が健康に関する精神的機能が優れている要因として、運動実践が主たる目的ではないものの、自立生活可能な高齢者は地域ごとに頻りに集まっている生活状況が貢献している可能性を示唆した。

そこで、我々健康自立支援研究班における本年度の主たる活動としては、その地域ごとの集まりにおいて、高齢者同士で実践可能な軽運動の提供を目的とした。具体的な方法としては、提案したプログラムを映像（DVD）化し、山古志地区高齢者の集まりに無料配布することとした。このようなツールを利用することにより、高齢者の集まりが健康運動実践の場となり、継続的実施が期待できると考える。提案したプログラムは以下のとおりである。

プログラムの目的：坐位で行える軽運動

プログラム構成：レクリエーション編（指遊び／手遊び：計9分）と健康運動編（上肢／体幹／下肢：計12分）から構成

プログラムの詳細：

レクリエーション編：指や手の運動をリズムと決まり事に従って動かすことにより、上肢の運動と脳への刺激を目的としている。

 チャプター1：指遊び（めだかの学校／ちょうちょ／おたまじゃくし：歌）

 チャプター2：手遊び（カメさん／桃太郎／チューリップ）

健康運動編：上肢、体幹、下肢のパートに分かれて構成しており、主に上肢は可動域、体幹は姿勢保持筋力と立ち上がり動作のための体幹前傾動作、下肢は股関節外転の可動域と下肢筋力向上を目的としている。

 チャプター3：上肢の運動（幸せなら手を叩こう：ピアノ演奏）

 チャプター4：体幹の運動（サイタロウ節：ピアノ演奏）

 チャプター5：下肢の運動（365歩のマーチ：ピアノ演奏）

尚、DVDの仕上がりが2月中旬のため、3月下旬に山古志地区高齢者の集まりにて、実践指導の予定

II. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	2010 11.15/11.18/12.2/2011 1.19/1.26/2.2
	内容	健康促進のための資料作りについて

2. 調査

①	日時・場所	
	内容	

平成22年度〈住生活・住宅研究〉グループ活動報告

I. 今年度の総括

本年度は、これまでの調査実績の公表につとめた。その内容は以下の通りである。

1. 日本建築学会計画系論文集への掲載

研究グループで実施してきた研究結果を「中越大震災後の生活の再構築に関する考察－長岡市山古志地区を事例として中山間地の居住生活に関する研究－」として日本建築学会計画系論文集 第75巻、第654において公表した。(著者：水村容子、内田雄造、上杉啓、古賀紀江、神吉優美) 本論では、中越大震災後の仮設住宅生活を経て、山古志地区へ戻り生活を再建した世帯と、他の地区移居し生活を再建した世帯の、生活状況および再建のプロセスについて、アンケート調査、ヒアリング調査を実施し、その結果をまとめたものである。本論は、同誌8月号に掲載された。結論においては、それぞれのグループの居住の継続に関する必要条件を検討した上で、山古志での居住継続に必要な要因の抽出を行った。

2. 日本建築学会全国大会での発表

上記の論文で公表した内容の一部を、2010年9月に開催された建築学会全国大会（北陸大会）において口頭発表をおこなった。口頭発表では、仮設住宅生活終了後の旧山古志村住民の現在の生活状況を概説した上で、仮設住宅生活終了後、地区外へ移居した世帯の「山古志へ戻らなかった理由」を中心に、その内容について発表を行った。

3. 次年度におけるEDRAシカゴ大会への発表のエントリー

2011年5月に米国シカゴで開催されるEDRA (Environmental Design Research Association) 第42回大会への発表を実施するため、Abstract Submission へエントリーを行い、審査の結果、大会での発表が認められた。発表タイトルは、“Reconstruction of Living Environment after Severe Disasters -A case study on housing environment in Yamakoshi, after the mid-niigata prefectural earthquake-”である。

次年度は、上記の研究成果を踏まえて、5年間の研究活動の総括を行っていく予定である。

II. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	
	内容	

2. 調査

①	日時・場所	
	内容	

平成22年度＜地域産業研究＞グループ活動報告

I. 今年度の総括

私たちのグループは、山古志地域の産業振興に向けた研究の遂行と共に、山古志研究のコアグループとしての役割を果たしている。

研究グループは、本年度4回の現地での調査・研究合宿と大学での計9回の研究会を実施した。また、現地での調査合宿の際に、研究発表会も開催している。

研究テーマとしては、(1) 都市との交流、(2) 通勤農業の実態把握と今後の課題、(3) 野菜や山菜を中心とする現地の直売所の実態調査を取りあげ、各々研究レポートをとりまとめた。

また、新たに地域復興支援員の活動を取りあげ、実態、問題点、今後の可能性を調査し、研究ノートを作成した。

来年度はオープンリサーチ研究の最終年度を迎えるので、研究成果の発表を目的とし、書籍の刊行に向けた準備を進めている。

II. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	4/29 朝霞校舎 5/27 朝霞校舎 7/ 1 朝霞校舎 9/ 9 朝霞校舎 10/ 7 朝霞校舎 11/18 朝霞校舎 12/ 2 朝霞校舎 1/13 朝霞校舎 2/10 朝霞校舎
	内容	地域産業研究グループ研究会
2. 調査		
①	日時・場所	8/5～7 (8) 山古志地域・十日町市
	内 容	ヒアリング調査および近隣地域視察
②	日時・場所	12/15～17 山古志地域
	内 容	ヒアリング調査および研究発表
③	日時・場所	2/17～19 山古志地域
	内 容	ヒアリング調査
④	日時・場所	3/10～12 山古志地域
	内 容	ヒアリング調査および勉強会

平成22年度＜景観計画研究＞グループ活動報告

I. 今年度の総括

平成19年度から継続している、来訪者の視点で山古志地区の景観要素及びポイントの把握を行い、主要沿道における調査を終えることができた。また、住民と来訪者の景観に対する相違を把握するための調査をアンケートによって把握した。

7月3日の調査では、教員・学生の21名が中山隧道入口を起点として、小松倉集落、木籠集落（水没集落と移転集落）、新字賀地橋、梶金集落、山古志トンネル、竹沢集落を経て山古志支所に戻る約9kmの景観におけるアメニティポイントとディスアメニティポイントを、調査者各々が写真と用紙に記録した。

11月3日の調査では、教員・学生の5名が、山古志産業まつり会場において「山古志の風景に関するアンケート調査」を実施し、55名の来場者やスタッフの方々から直接山古志の風景に関する話を伺うことができた。また、木籠の郷見庵、大久保の大久保感謝祭、竹沢の山古志サテライトにおいても3名の方からアンケートを実施した。また、山古志地区における主要な景観（中山隧道、アルパカ牧場、金倉山等）の状況を確認した。

12月26・27日の調査では、教員・学生の5名が、徒歩で山古志支所周辺を踏査して、主要な景観ポイントとともに、冬期の景観要素を話し合いながら把握した。また、長岡市山古志支所職員を対象にヒアリングを行った。ヒアリングでは、現在の復興状況について、落雪住宅の建築件数について、人口の動向について、山古志のアピールポイントについて、景観整備について、地域振興策について、棚田の維持について、森林の管理について、除雪についてなどの質問を行った。

次年度は、平成17年度からの災害復旧に関する調査結果、平成19年度からの沿道における主要景観、住民と来訪者の山古志の景観に対する印象評価をとりまとめて、震災後の景観計画に対する報告書を作成していきたい。

II. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	7/3 山古志地区
	内容	中山隧道～山古志支所間の夏期現地踏査
②	日時・場所	11/3 山古志地区
	内容	山古志の風景に関するアンケート調査
③	日時・場所	12/26～12/27 山古志地区
	内容	冬期現地踏査及び山古志支所へのヒアリング調査

平成22年度＜地域文化研究＞グループ活動報告

I. 今年度の総括

研究経過

昨年度に続いて研究班のメンバーが個々に関心を抱くテーマについて調査研究を継続して行なった。

井上治代は社会学の立場から、中山間地域における住民意識の確立と存続について調査を行なっている。震災という心身両面にわたる危機を経験した人々が、それを乗り越えていく過程でどのように住民意識を確立していったかを探っていく試みである。本年度は、山古志地区内の葬送と墓制の変遷をたどることを通じて、地域的連帯のありようを検討した。

高橋直美は文学研究の立場から、山間農村部の口碑伝承に関する比較研究を行なっている。基本資料である『北越奇談』や『山古志村史』に語られた俗信や妖怪談について、同じ中山間地域である岩手県遠野市に伝わる物語との比較検討をもとに、山村にまつわる伝承や風土とのかかわりを明らかにしていく試みである。本年度は関連資料の解説を継続して行なった。

菊地章太は宗教学の立場から、山古志における十二山ノ神の信仰について調査を行なっている。山ノ神信仰の過去と現在をたずねることにより、たえまなく続いてきた信仰を成り立たせているところの祖霊観のありようを探っていく試みである。本年度は山古志地区内の墓地をたずね、先祖祭祀のありようを理解することを通じて、祖霊観の形成過程をどのように捉えることができるかを検討した。

活動状況

2010年12月15日から16日まで、井上と菊地は長岡市山古志地区で調査を実施した。聞き取り調査と写真撮影を補助するため、ライフデザイン学部4年次の須藤暎美と山崎奈美が同行した。

12月15日(水)は、梶金地区、木籠地区、小松倉地区、竹沢地区、虫亀地区の墓地を訪れて現状を調査し、写真撮影を行なった。続いて長岡市役所山古志支所を訪れて、支所長の齋藤隆氏にお会いして今回の調査について報告した。

翌日の12月16日(木)は、種苧原中野地区、同下村地区、同上村地区の浄土真宗広照寺の墓地を訪れた。楢木地区についても調査を実施する予定であったが、前日からの降雪のため道路が閉鎖されており、今回は調査を断念した。続いて、池谷地区、桂谷地区、油夫地区の墓地を訪れて現状を調査し、写真撮影を行なった。

本年度は、上記の活動をもとに菊地がその研究成果の一部を「十二山ノ神の信仰と祖霊観(拾遺)」と題して『福祉社会開発研究』第4号に執筆した。

II. 研究会・調査

1. 研究会

①	日時・場所	12月15日(水) 長岡市蓬平和泉屋
	内容	山古志地区の墓地を対象とした聞き取り調査の打合せ

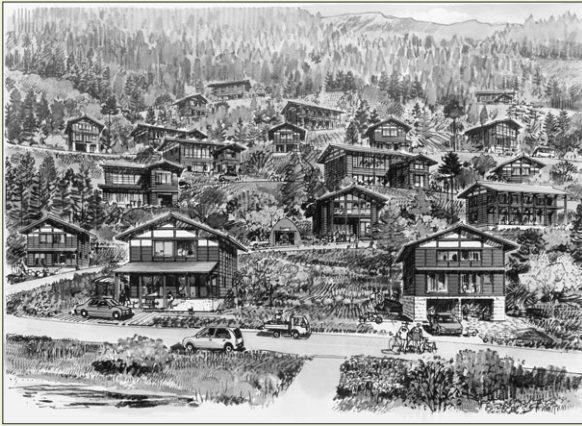
2. 調査

①	日時・場所	12月15日(水)～16日(木) 長岡市山古志地区
	内容	山古志地区の墓地を対象とした聞き取り調査と写真撮影(詳細は上記)

福祉社会開発研究 第4号

2011年3月31日発行

編集／発行 東洋大学福祉社会開発研究センター
〒112-8606東京都文京区白山5-28-20
TEL/FAX 03 (3945) 7504



「山古志の集落の復興イメージ」
作成：㈱アルセッド建築研究所

東洋大学は平成24(2012)年に創立125周年を迎えます

Toyo University
125th 
Anniversary

伝統を未来に125 Tradition of 125 years into the future

CENTER for DEVELOPMENT of WELFARE SOCIETY, TOYO UNIVERSITY
5-28-20, Hakusan Bunkyo-ku TOKYO 112-8606 JAPAN